

災害報道の在り方 ～「命を救える報道」を目指して～

レポーター ひろ記者 津森正裕

「平和」「防災」「人口流出」などの地域課題への取組を強化しているNHK広島放送局。コンテンツセンターの災害担当デスク森野周さんに、防災の取組を聞いた。

〈災害報道は報道の一丁目一番地〉

今年1月の能登半島地震、大津波警報発表時のアナウンサーによる強い言葉が注目を集めた。視聴者の危機感が増し早期避難に結び付いたと聞いている。「NHKではことばで命を救うことを目的に、『命を守る呼びかけ』を行っています。」と森野さん。

また、情報がネットで氾濫している現在、メディア報道では、特に災害発生時において正確で迅速な情報を発信することの重要性が一層高まっている。広島放送局でも緊急時に備えて万全の体制を整えている。

〈「コミュニケーション」としての災害報道〉

東日本大震災を契機に、災害発生時の報道とともに、「本当に命を救える報道」を目指した防災・減災の活動を続けている。情報を発信する「インフォメーション」としての放送とともに、放送に呼応した視聴者の皆様が行動を起こすことにつながる「コミュニケーション」としての災害報道にも注力している。その一環として、広島放送局では平時からの視聴者とのコミュニケーション強化を図っている。

令和6年2月20日企業防災・BCP（事業継続）セミナー

広島市の幅広い業種、規模の企業・団体23社が参加。森野さんによる「南海トラフ巨大地震の被害想定」基調講演と、南海トラフ地震を



▲NHK森野周さん

想定した各社の被害予測と現在の取組状況を共有するワークショップ。

同年5月3日防災番組「明日をまもるナビ」全国放送の番組を広島放送局で公開収録。一広島土砂災害から10年。命をまもるわがまち防災－

「広島は土砂災害を経験していて市民の防災意識は高い。一方、その意識が水害に向いているとも感じ、地震防災も含め広島の企業・団体と平時から協働して取組を強化していきたい。」と森野さん。

確かな取材に基づいたコンテンツがNHK防災としてホームページに掲載されている。

「災害列島一命を守る情報サイト」地震・津波、豪雨災害、避難所運営など、参考になる情報が掲載。

「NHK防災これだけは」…災害切迫時に「これだけはやってほしい」身近な対策のイラスト集。「広島市これだけは（津波・揺れ）」も掲載。

「ひろ記者」とは、市民自らが地域のまちづくり活動やイベントなどを取材し発信していく、広島市の市民レポーターです。

▶<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/14/7197.html>



▲BCPセミナーの様子



▲津波 広島 これだけは

らっしゅくコラム

Rashikku column

近年の豪雨災害を教訓とした様々な取り組みを活かすために

広島市安佐南区・安佐北区で77人が犠牲となった平成26年8月豪雨から今年で10年、そして、広島県内で133人が犠牲となった平成30年7月豪雨から6年が経ちます。近年頻繁に発生している大雨による洪水・土砂災害を受け、ハード・ソフト両面で対策が進められてきております。

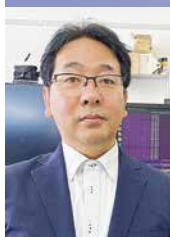
数10年に1度の頻度で発生する大雨に対しては、砂防堰堤や河道の拡幅や粘り強い堤防などの構造物で被害を防ぐ対策が立てられています。これまでにない規模の大雨に対しては、浸水や土砂流出を免れないにしても、発生を遅らせることで避難に必要な時間をできるだけ確保する役割を、これらの構造物が担っています。また、河川水位計や河川監視カメラが中小規模河川にも設置が進むと共に、災害発生時の危険度を5段階の警戒レベルで表されるようになり、これらの情報がスマートフォンアプリやテレビのデジタル放送を通じて手軽に利用できるようになっています。

平成26年8月豪雨による被害を受けて、広島市では、地域防災力の向上に向け、人材育成や住民主体の取り組みを推進しております。防災士の登録者数は、2024年5月末時点で3,247人と東海地方以西の政令指定都市の中で最も多い人数となっております。更には、地域住民主体のわがまち防災マップの作成を進めており、令和6年6月時点で、広島市中区で175の自主防災会、市内全体で1,847の自主防災会で完成しております。広島県の取り組みとして、家族単位で避難行動計画を事前に考えるための支援ツールとして、ひろしまマイ・タイムラインを開発し、学校教育をはじめとする様々な場面での活用が進められてきております。

大雨や台風などの風水害のシーズンを迎えるにあたり、以上で述べた

様々な取り組みを活かすためのアドバイスをいくつか申し上げます。1つ目は、わがまち防災マップやハザードマップの再確認です。避難経路上のきめ細やかな情報は、住民の皆さんの手で作成されたわがまち防災マップに優位性があると思われますが、最新の地域内の情報が反映されているか今一度確認をお願いします。2つ目は、ひろしまマイ・タイムラインの有効活用です。広島県では新たに広島県公式LINEを利用して、簡単に避難計画ができるようになりました。気象現象の段階的な進行とともに必要となる備えについて、ご自身の置かれている環境に合わせて事前に計画を立てておくと、たとえ計画と異なる事態となっても状況の変化に応じて冷静な対応ができるようになります。3つ目は、深夜の急な大雨に対する備えとして、たとえ情報に気づくのが遅れても、最悪の事態に遭遇しないために、ご自宅内の寝室や防災用品等の置き場所などを必要に応じて見直しを行うことです。

近年の災害を教訓とした取り組みを活かせるかどうかは、住民一人一人の皆さんの関心の深さと主体性・積極性にかかってきます。風水害による死者ゼロを目指して一緒に頑張っていきましょう。



Profile

広島工業大学 環境学部 地球環境学科 教授
田中 健路

京都大学大学院理学研究科博士(理学)、気象予報士、防災士
広島工業大学地域防災減災教育研究推進センターセンター長
西日本で発生する台風・集中豪雨などの発生メカニズムに関する調査研究の傍ら、広島工業大学防災士養成講座を通じた学生や一般市民の防災人材育成、能登半島地震等の災害復旧ボランティアなど、防災減災に向けて幅広く活動を行っている。

ようこそ！ 公民館へ ～佐伯区内公民館～

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。

1 石内オカリナグループ 石内公民館

令和2年度に石内公民館で実施された「グループづくりきっかけ講座オカリナはじめてみませんか」を経て誕生したのが、「石内オカリナグループ」です。講師の優しく丁寧な指導のもと、今年度は13名で和気あいあいと楽しく活動しています。

オカリナとは、イタリア語でOca=ガチョウとina=小さいを意味する接尾語が合わさった言葉です。オカリナは土を練って窯で焼き上げた土笛で、ホッとするぬくもりのある音が特徴です。息を吹き込むことで何とも言えない柔らかな音が響きます。

活動日は、毎月第2・第4土曜日の午後です。練習を重ねていくと、皆さんの音色が揃ってきて、とても素敵なハーモニーになり温かい気持ち広がります。

桜の咲く頃には「神原のしだれ桜（広島県の天然記念物）」の前で演奏し、秋には公民館まつりや地域の敬老会、そのほかサロン等でも演奏・発表しています！土曜日の練習ですので、お勤めの方も参加しやすいですよ！興味のある方はぜひ石内公民館へお問い合わせください。



2 楽しいウクレレマハロ 藤の木公民館

毎月第2・第4金曜日10時～12時に活動しています。令和5年度に主催事業「アク

ティブシニア応援講座ウクレレ教室」を経て発足しました。マハロとはハワイ語で「ありがとう」という意味です。講師はクラシックギターで有名な石原圭一郎先生です。現在会員は7名。家にウクレレがあったり、このグループ発足で新たに購入したりしてウクレレを始めた音楽の大好きな仲間です。ウクレレは持ち運びも便利で気軽にできる楽器で、ギターより弦も少なくコードを押さえるのも簡単なので、早く上達することができます。

みんなで合奏するのも楽しく、今は10月の公民館まつりでデビュー演奏ができるように練習に励んでいるところです。ウクレレは優しい音色で癒し効果抜群。練習日にはいつも心穏やかになって帰ります。日頃の忙しい生活の中でも、練習する時にはウキウキ気分になります。ぜひウクレレに触れてみてください。



3 彩が丘タイニーフィールド 彩が丘公民館

彩が丘公民館で隔週（原則第1・第3・第5週）の水曜日に2階研修室にて、19時から22時まで活動しています。

ドローンを使ったグループ活動は、スリルとチームワークの両方を楽しめる新感覚のスポーツです。高速で飛行するドローンを操作し、障害物を巧みにかわしながらレースを楽しむことは、まさにスリリングな体験です。また、グループで戦略を立て、チームとしての連携を深めることで、達成感と一体感を味わうこともできます。

私たちのグループでは、スポーツドローンを使ったトレーニングやレースイベントを定期的に開催しており、専門のインストラクターが丁寧に指導します。飛行技術の向上だけでなく、ドローンのメンテナンスや最新のテクノロジーに関する情報交換も活発に行っています。

スポーツドローンに興味をもっている方は、まずは体験してみませんか。実際にドローンを飛ばしてみることで、その魅力を肌で感じることもできるでしょう。

また、一緒に活動することで新しい仲間と

の出会いも楽しめます。スピード感溢れるスポーツドローンの世界に飛び込み、刺激的な時間を私たちと一緒に過ごしてみませんか。



4 えほんでえいご 美鈴が丘公民館

「えほんでえいご」は、令和5年度に主催事業からスタートした新しいグループです。毎月第3日曜日の10時から1時間活動しています。

1回の活動では、みんなで同じ絵本を1冊読み切ります。このため、英語のスキルに関係なく楽しみながら発音の学習ができます。英会話などの学習と違い、家でも絵本を読むことで無理なく英語に触れることができ、絵本ならではの繰り返し表現で、会話に生かせるフレーズが自然に定着することがこの学習の魅力です。

また、講師の海外在住経験を生かし、絵本を通して海外の行事やそれにまつわる文化的背景なども知ることができます。会員は20代～80代と年齢の幅が広く、子ども同伴で参加することもでき、和やかな雰囲気です。

英語に自信がないけど英語に触れてみたいと思われたら、ぜひ見学に来てみてください。日曜日朝の1時間、優しく楽しく英語に触れてみましょう。



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

- ① 石内公民館 …………… ☎082-941-0120
- ② 藤の木公民館 ……… ☎082-927-2496
- ③ 彩が丘公民館 ……… ☎082-927-8338
- ④ 美鈴が丘公民館 …… ☎082-927-1727

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。
地域活動やまちづくりのお手伝いに、
今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

手染と手縫いの手作りネクタイ こばやし あさこ
小林 朝子さん

世界にひとつの手作りネクタイ 作る楽しさと贈る嬉しさを伝えて40年

「夫はネクタイを購入したことがないですよ」と小林さん。結婚して49年、毎年ご主人の誕生日には手作りネクタイをプレゼントしているそうです。

もともと手芸に興味があった小林さんが手作りネクタイの世界に魅了されたのは学生時代。東京で開催されていた展示会で染色を目にしたのがきっかけで、一針一針縫って作る工程にとっても感銘を受けたそうです。それから10年を経て「日本手づくりネクタイ普及協会」の高等師範の資格を取得し、昭和60年からは「手づくりネクタイ教室」を開催、平成3年に人材バンクへの登録も行い、手づくりネクタイの普及に尽力しています。

小林さんが作るのは主に紅葉の葉を用いた作品。紅葉染色は最初に染めた紅葉が広島県の県木だったこともあり思い入れもひとしお。二度と同じ物は作れない、世界にひとつの作品を作り続けています。主に新井口駅ビルカルチャー教室（令和6年7月から五日市駅前に移転）で活動。手染めと手縫いのネクタイ作りを基礎から完成までを丁寧に指導し「手作りは思うようにいかないことが多いけれど、それがまた魅力なんです」と、笑顔がこぼれる小林さん。また、思いの詰まった大切なネクタイは擦り切れの補修や芯交換なども行っています。



▲紅葉をあしらった手作りネクタイ等

小学生を対象に「父の日」に合わせたワークショップも好評で、「子どもが作る時にはある程度の

工程までを下準備しておきます。細かな工程よりも、手作りを楽しんでもらうことが重要。自分でネクタイが作れたという達成感を味わってほしい」と言います。まちづくり市民交流フェスタなど、大人を対象としたワークショップでは、本格的な工程で完成まで導き、参加者からは「まさか自分にネクタイが作れるなんて!」と喜びの声が多く寄せられています。

「針を持つことは日本人の特技、魅力だと思っています」と小林さん。今後はひと・まちプラザのフリースペースを利用し、2ヵ月に1回程度、講習や修理を行い多くの方々と手作りの魅力を盛り上げて行きたいと考えているそうです。

「ネクタイは顔の次に印象に残ると思うので、お気に入りはいつまでも大切に使用してほしい」と小林さんは願っています。



▲まちづくり市民交流フェスタに参加した時の様子



▲小林朝子さん

カーボンニュートラルにつながるゴミ分別・リサイクル方法 よしむら たかふみ
吉村 隆文さん

簡単そうで難しいゴミの 分別・リサイクル方法を広める

廃棄物のリサイクルや処分に関する事全般、カーボンニュートラル（温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする）につながるゴミの分別や処理についての最新情報、ゴミと環境問題等を発信している吉村さん。

現在まで20年近く廃棄物のリサイクル工場に勤務している吉村さんは、令和5年1月に、Act Locally Advance室（地元と関わりを持って、仕事の幅を広げる役割を担う）の室長に任命された際、地球温暖化が叫ばれている今、自分が関わっている仕事と環境問題やゴミの問題は密接な関係にあると感じ、子どもから大人まで幅広い世代にゴミの分別、減らし方をきちんと説明し、理解し実践してほしいと思い、同年春に人材バンクに登録しました。

地域の放課後児童クラブのスタッフと知り合い、7月には子ども



▲放課後児童クラブでの環境学習の様子（令和5年7月）

を対象に、ゴミの分別と減らし方についての環境学習会を開催。「講座も時間が長いと子どもたちは飽きるので、少しでも興味を持ってもらえるようにクイズ形式を取り入れたり、大きなペットボトルで作ったお面を使い、キャラクターで楽しんでもらえるように工夫したり、勤務先の

仲間も協力してくれました」と吉村さん。

その後、12月に安芸区船越公民館での高齢者を対象にした環境講座を皮切りに、安佐南区祇園公民館、古市公民館でも同様の講座を開くなど、着実にゴミと環境問題への関心の輪が広がっています。しかしゴミを分別するだけでなく、どうすればゴミの量を減らすことができるのか。住んでいる地域、環境によって異なる点もあるので、そこをいかに解決していくのかクリアすべき問題も多いそうです。

吉村さんは、コロナ禍に、森林ボランティアに興味を持ち、休日は山へ行く機会も増えたことから、今後はゴミの削減方法と森林問題をうまくリンクさせたプログラムを作成し、広げていきたいそうです。

自身が携わる仕事の特性を活かし、環境問題に繋がることをわかりやすく伝えていく事にやりがいを感じている吉村さん。世界の環境問題を解決する第一歩を、地域から広げる大切な活動だと感じました。



▲船越公民館での高齢者向け講座の様子（令和5年12月）

まちづくりボランティア人材バンク達人を 紹介してもらうには…

まちづくりボランティア人材バンクは「自分の知識や技術を生かしてボランティア活動をしたい」達人と「ボランティアで来てほしい、教えてほしい」団体・グループとをつなげるシステムです。

現在 150 名余りの達人が約 180 件のボランティア活動で登録しています。年間 290 件程度の達人紹介の申込みがあり、日程や活動内容等の条件が整った約 260 件が活動につながっています。

地域活動や手作りイベントなど市民の皆さんが活動する中で、「お願い! 達人」という時は、お気軽にご相談ください。

1. 人材バンク紹介申込書の作成

どういう団体・グループが、いつ、どこで、誰を対象に、何をやる行事なのか、希望する達人を所定の申込書へ記入します。決まっていない項目は空欄のままで大

丈夫です。

●紹介申込書は、人材バンク登録内容リストや当プラザ HP、ひろしま情報 a-net から入手できます。

●申込書の作成が難しい場合はご相談ください。

2. 広島市まちづくり市民交流プラザへ申込み

当プラザへ、FAX、Eメール、郵送、窓口へ持参のいずれかで申込書を提出します。初めて申し込まれた団体や詳しいことを確認したい時には、当プラザより連絡をさせていただきます。

3. 当プラザから達人へ連絡・調整

紹介申込書の提出後、希望する達人へ当プラザから打診の連絡をし、紹介の可否を確認します。（連絡・調整には、1 週間程度かかります。）

4. 申込団体へ達人の連絡先をお知らせ

達人紹介の内諾が得られたら、達人の連絡先をお知らせします。達人との直接のやり取りのスタートです。速やかに正式な依頼の連絡を取りましょう。

5. 活動・イベント等の準備と実施

実施に向けて、達人との十分な打合せを行いましょう。しっかり相談すれば、お互いに良いアイデアが生まれます。いよいよ、活動・イベントの実施です。

6. 活動報告アンケートのお願い

活動終了後、当プラザよりアンケートをお送りします。実施結果や感想、写真、配布資料等を報告してください。その後の紹介に大変役立ちますので、ご協力お願いします。

まちづくりボランティア人材バンク発表会

仕事や趣味などで得た知識・技術などを生かし、ボランティアとして、助言・実技指導などを行う方々が「まちづくりボランティア人材バンク」に数多く登録されています。当プラザでは、市民グループなどからのご要望により、達人たち（登録ボランティア）の紹介・あっせんをしています。毎月第 4 土曜日は「人材バンク発表会」の日。達人たちの得意なテーマで講座や催しを開催しています。どなたでもご参加いただけ

ますので、どうぞご来館ください。

日時／8月24日（土）、9月28日（土）、10月26日（土）

毎月第 4 土曜日 午後 2 時～3 時半

※時間は変更になる場合がございます。

※テーマはプラザ HP やチラシでお知らせします。

※無料：要事前申込

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは…

広島市まちづくり市民交流プラザ（合人社ウェンディひと・まちプラザ）

☎(082)545-3911 (082)545-3838

※当バンクは、政治、宗教、営利目的の活動での利用はできません。

※達人紹介は、団体・グループからの単発な活動に限ります。個人活動や長期継続活動への紹介はできません。

※達人は、実費弁償ボランティアとして活動します。交通費、資料代、材料費等の実費は、申込団体にご負担いただきます。